



## 能登半島地震！復興へ道半ば

1月1日16時10分に発生した、石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の能登半島地震は、200人を超える方々の尊い命を奪い、家屋倒壊や損壊、大規模火災に次ぐ断水や停電、さらに国道や県道の道路陥没により交通網が寸断され、山沿いや平野・沿岸部で広範囲に土砂災害等の被害が発生しました。珠洲市や輪島市などでは建物の倒壊も多く、救助が遅れ、被害の全容は見えないなか、避難を余儀なくされた被災者の健康の回復や生活再建、被災地の復旧・復興の取り組みが喫緊の課題となっています。3月1日で、発生から2カ月が経過しましたが、石川県の住宅被害は、7万5421棟、断水が約1万8880戸で、被災地は、がれきがそのままの地域もあります。死者は災害関連死の15名も含めて241名、1次避難者は6587名、1.5次避難者は129名、2次避難者は4733名となっています。

鉄道も、線路や構造物など甚大な被害を受けました。七尾線は、1月3日に津幡～高松間、1月15日に高松～羽咋間、1月22日に羽咋～七尾間が運転再開しました。七尾～和倉温泉間については、2月15日に再開し、七尾線は全線で運転再開しました。のと鉄道も2月15日七尾～能登中島間で運転再開されています。

駅舎では、七尾駅と和倉温泉駅の1番ホーム(駅舎側)が損壊し、ホームが線路側に傾斜し、現在も使用できません。七尾駅は断水が解消され、トイレは使用できますが、和倉温泉駅は現在も断水が続いていて、仮設トイレの使用となっています。また、1番ホームが使用できないため、金沢方面の特急及び普通列車の発車が2番ホームとなり、階段を利用しないと乗れません。そのため、車いすや視覚障害、お年寄りの方など、大変なご不便をおかけしています。車いすの利用者は、エレベーターが無いため、昇降機の利用となり、突発で来てもすぐには乗車できません。

今回の地震の被害は、想像を絶するものであり、線路や建物の被害にとどまらず、自宅も被災する中、避難先から通勤している社員もいます。

労働者の健全な心・体を蝕むダメージを受けましたが、それでも「前を見て進んでいければ」と思います。



和倉温泉駅改札口 2月1日撮影



七尾駅1番ホーム 1月18日撮影